



清水大典は埼玉県秩父市生まれ、旧制秩父農林学校を卒業後、ほとんど独学で動植物、菌類、昆虫、岩石などの広範囲な博物学を修得します。東京帝国大学理学部附属小石川植物園などに勤めた後、1940年に満州(中国東北部)の大陸科学院(当時)植物研究室に移りました。終戦後帰国し、小石川植物園に復帰。その後、夫人の郷里である米沢へ移住します。

米沢では、その専門を活かし米沢市立上杉博物館事務吏員、県営熱帯植物園(後の米沢市営白布植物園)園長となり、定年まで勤めました。1981年には日本冬虫夏草の会を設立して会長となり、冬虫夏草の第一人者として研究と後進の指導に努め、山形県内の植物学の発展に大きな役割を果たしました。

また、1994年に著した「原色 冬虫夏草図鑑」は冬虫夏草の研究においてバイブル的書物となっています。

博物学では正確な図を描くことが基本であり、清水も微小な冬虫夏草をルーペで観察しつつ、細筆で顔彩や水彩絵具を使い分け、標本細密画を多数描きました。それは植物学における役目のみならず、植物画として芸術の域にも達しています。

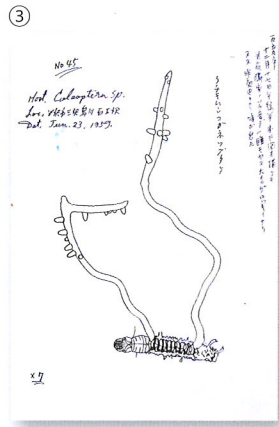
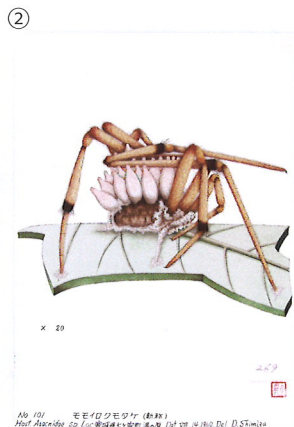
本展は、2011年に収集した植物学者 清水大典の資料を中心に展示し、その足跡を紹介します。

冬虫夏草とは

セミやハチなどの昆虫やクモ類に寄生した、キノコの総称です。

これは非常に稀な自然現象であり、世界中でも約300種余りしか発見されていません。昆虫と菌種の結合体で、土の中にいる幼虫に菌が侵入し、冬の間に昆虫の豊富な栄養分を吸収しながら成長します。形は昆虫の形が残っていますが、中身は菌に変わっています。これが「冬虫」です。春になり、初夏にかけて、虫の中の菌が発芽し、頭が地面に出て、やがて細長い棒状になります。これが「夏草」です。この奇妙な生態のために「冬虫夏草」と呼ばれています。

セミ、イモムシ、トンボ、蚕のサナギ、ハチなどに寄生しますが、その生態はまだ多くの謎に包まれています。



① ミヤマタンポタケ 清水大典原図 紙・ペン・彩色

② モモイロクモタケ 清水大典原図 紙・ペン・彩色

③ クチキムシコガネツボタケ 清水大典原図 紙・ペン

④ 清水大典の採集道具類

オープニングギャラリートーク

2月14日(土) 14:00~
「植物学者 清水大典のしごと」
講師: 米沢生物愛好会 会長
米沢市文化財審議会 委員
石栗正人 氏

※要企画展示室入館料

次回展覧会予告

特別展「国持大名上杉家」
2015年 4月18日(土)~6月21日(日)
展示替: 5月18日(月)~5月22日(金) 休館日: 5月27日(水)

常設展示室 上杉文華館 * 通年テーマ展示

「上杉鷹山をめぐる人々」
2015年 1月27日~2月22日 「商人の力を借りて」
2月24日~3月29日 「鷹山のお手本」
※12月~3月は毎週月曜日休館

置賜文化ホール

親子でたのしむ音楽会
2015年 3月8日(日) 13:30開場 14:00開演
全席自由 500円(当日800円) 中学生以下無料(整理券あり)
先行予約日 伝国の杜FC会員先行予約 1月7日(水)~1月11日(日)
一般発売日 1月15日(木)

FANCLUB & SUPPORTER メンバー募集中!

伝国の杜サポーター 人とつながる自分を生かせるボランティア。
伝国の杜ファンクラブ 特典いろいろ。現在会費半額です。

至山形 R13
至福島
至至多方 R121
上杉神社 下
JR米沢駅
米沢市役所
米沢市上杉博物館 置賜文化ホール